

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1 (高等学校)

学校名	佐賀県立高志館高等学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要（簡潔に）	・学校魅力を情報発信し、地域と連携した取り組みなどの継続に力を入れ、地域とともにある学校づくりを引き続き行う。 ・全職員が「高志深心」の理念のもと、農業の専門高校の特徴を活かしたより良い学校生活の構築に取り組む。
-----------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○農業分野（園芸・環境・食品）の特徴的な学びを推進し、農業学習の魅力を発信していく。 ○中部・東部地区唯一の農業高校として、地域の持続可能な農業や産業を担う、高い志を持った人材を育成する。 ○地域の持続可能な農業や産業を担う若人を育てる。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
	○基本的生活習慣が身につく、集団の一員として行動できる生徒 ○実験や実習など、本校の学習活動に興味・関心をもって取り組める生徒 ○地域や産業界、大学等と連携した活動に取り組み、将来、地域に貢献したい生徒	○少人数や個別での学習指導を通して、一人ひとりの夢をカタチにする細やかな進路指導 ○体験的学習を重視するとともに、地域や産業界・大学等と連携を図る、実践的な学習活動 ○専門的知識・技能の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る、全教科が連携した学習活動	○自分の人生をデザインし、その実現に向けて努力していくことができる生徒 ○これからの時代に対応した専門的（園芸・環境・食品）な知識や技能を身につけた生徒 ○自分の役割を理解し、他者と協力してものごとに取り組むことができる生徒	
スローガン「一人一人が輝く高志館」－ 今日の一歩が明日を創る、チャレンジ精神で未来を切り開け－ ○生徒が高い志を持って自身の可能性を信じ、自ら主体的に行動する力を育むために、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。 ○さまざまな教育活動をととして、自己肯定感や自己有用感を養い、学力やマナーを含む、社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。 ○生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、自己の責任を果たす				

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○基礎学力の向上 ○専門知識の理解向上 ○希望進路の実現	○基礎学力診断テストにおいて、学習到達ゾーンがC3以上の生徒を30%以上にする。 ○日本農業技術検定3級合格者を60%以上にする。 ○就職内定率100% ○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%	・朝の学びの時間にマナトレを使用して、中学までの履きを復習させることで、基礎学力の定着と向上に繋げる。 ・専攻の授業や総合実習において、事前と事後に理解度を確認する。 ・進学希望者に対する早期個別指導の実施 ・国立大学への受験指導体制の確立 ・ガイダンスや対話を通して進路意識の向上を図る		・		・		・		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権・同和教育の年間計画に基づいて授業を行った教員100% ○人権学習の前後の心の変化調査 ○情報モラルに関する意識向上80%	・人権講演会の実施 ・人権に関するホームルーム活動の実施 ・生徒アンケート調査の実施 ・情報モラル講演会の実施		・		・		・		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ0(ゼロ)を目指す。 ○自分の言動を振り返り、改善しようと意識向上を図った生徒90%以上	・各学年で生徒に関する情報交換を実施し、いじめの予防、早期発見、早期対応に向けた取り組みを行う。 ・生徒とのコミュニケーションを密にとり、些細な変化も見逃さないように注意し、職員間で連携して対応に取り組む。 ・いじめ防止対策学習会を年2回実施 ・自分の言動を振り返る教育相談アンケートの実施		・		・		・		
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○体力の向上を実感した生徒の割合を80%以上にする。	・体育の授業でラジオ体操・ランニング・補強運動などの体力を向上させる運動を継続して実施する。 ・運動に関する意識調査の実施 ・新体力テストの結果を基に、体力の向上や運動習慣の定着を図る。(年2回)		・		・		・		
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒80%以上	・保健だよりの発行(年間5回) ・食に関する意識調査の実施								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定(毎週月曜日) ・時間外が多い職員の業務分担の見直し ・部活動休養日の設定 ・部活動顧問の複数配置		・		・		・		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・学科別情報交換会の実施 ・個別の支援計画・指導計画様式の検討		・		・		・		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
★唯一無二の誇り高き学校づくり	◎★特色ある専門教育を活かした地域学校協働活動により地域への愛着を育む ★学校運営協議会と連携した魅力ある学校づくりを推進する	◎将来、地域に貢献したいと思う生徒の割合80%以上 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上 ★県外からの入学者数3人以上	・園児等との交流活動をはじめ、地域等と連携を図り、実践的な学習活動を実施する。 ・地域の産業界等と連携し、外部講師を招聘するなど専門的な学習の深化を図る。 ・学校運営協議会を開催し、地域との連携強化を進め、教育活動の充実等に取り組む。		・		・		・		
○学科の特色を活かした地域の持続可能な農業や産業を担う人材育成	○園芸科学科「農と食を支える人材の育成」 ○環境緑地科「地域産業を担う人材の育成」 ○食品流通科「食で未来を切り拓く人材の育成」	○各学科の学習内容に興味・関心を持つ生徒の割合を70%以上 ○各学科の特色的な活動の実施率を90%以上 ○特色的な活動の情報発信を月1回以上	H科:持続可能な農業やスマート農業の実践、地域への発信、L科:産業界と連携したドローンなどの最先端技術の学習、校内外での実践的な造園技術の学習販売実習、F科:地域の食材を使用した商品開発、大学と連携したジビエ肉加工の学習		・		・		・		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望（簡潔に）	・ ・ ・
---------------------	-------------